

令和5年度第3回岡崎市環境審議会 会議録

1 開催日時

令和5年10月12日（木）午後2時から午後3時40分まで

2 開催場所

岡崎市役所福社会館2階201会議室

3 内容

- (1) 岡崎市版レッドリストの改訂について（諮問）
- (2) 岡崎市地域脱炭素化促進事業における促進区域の指定について（諮問）
- (3) 岡崎市における気候変動対策推進のあり方について（審議）

4 出席委員の氏名（五十音順）

(1) 出席委員

今村ひとみ、岩月幹雄、大美昇治、片岡明博、片山鑛一、河江喜久代、川田奈穂子、香坂玲、阪口奈央、佐々木健吾、佐谷智、鶴田和男、鳥山紀幸、橋本啓史、藤田真須美、丸山泰男、吉永美香、渡邊幹男

(2) オンラインによる出席委員

杉山範子

5 説明のために出席した職員の職氏名

環境部長 新井正徳

環境部次長兼ゼロカーボンシティ推進課長 蜂須賀功

環境政策課：課長 雑賀章友、自然共生係長 森本徳恵、主事 濱川共香

ゼロカーボンシティ推進課：担当課長 古瀬川英樹、副課長 河隅清浩、事業企画係長 植村信幸、主事 本多啓亮

6 出席した事務局の職氏名

環境政策課：副課長 手島洋二、環境活動推進係長 中村亮太、主事 伊藤駿

7 議事要旨

(1) 岡崎市版レッドリストの改訂について（諮問）

事務局より諮問内容について説明した後、質疑応答がなされた。

（香坂委員）

鳥川ホタルの里が自然共生サイトに認定されたということで、他の認定場所でもそうだがモニタリングをしっかりと継続して行ってほしい。

(河江委員)

レッドリストの維管束植物No.63 のギンリョウソウモドキがツツジ科になっているが、イチヤクソウ科ではないのか。

(渡邊委員)

昔は確かにイチヤクソウ科であったが、分類体系が変わったことで現在はツツジ科に分類されている。

(2) 岡崎市地域脱炭素化促進事業における促進区域の指定について（諮問）
事務局より諮問内容について説明した後、質疑応答がなされた。

(丸山会長)

諮問内容の確認であるが、地域脱炭素化促進事業というものは風力発電や太陽光発電の導入を促進するものであり、風力発電や太陽光発電といった再エネの促進区域を設定するにあたり、国や県が除外すべき区域として指定した場所以外で、市町村が考慮すべき区域を検討した結果、建物の屋上や屋根、建物敷地内の土地を促進区域としたいと考えているということによって良かったか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

そのとおりである。

(佐谷委員)

過去の電力自由化の際に、太陽光パネルを設置しようという機運が高まった時があったが、法律で既存の建物に太陽光パネルを設置することはできないという法律があったと思うが、屋根への太陽光発電の設置を促進してしまって大丈夫か。その法律は改正されたのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

建設当初に太陽光パネルを設置することを想定していないため設置ができないなど、建物ごとの個別の問題はあると思うが、既存の建物に太陽光パネルを設置してはいけないという法規制はない。

(片山委員)

国から重点対策加速化事業として5億円の支援があるという説明であったが、総額ではどの程度の額になるのか。また、これから2050年に向けてどういったスケジュールで313,654kWの太陽光発電導入を目指すのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

重点加速化事業として、今年度から6年間で15億円と促進区域の設定による国が

らの支援の5億円で、総額20億円の予算である。ただ、重点加速化事業は補助だけではなく、公共施設への太陽光パネルの設置なども含めた総額である。2050年に向けた具体的なスケジュールはまだないが、まずはこの6年間しっかりと取り組んでいく。

(今村委員)

太陽光パネルの設置は誰が実施するものなのか。市民が自宅に設置する場合に市が補助をしてくれるという認識で良かったか。

また、太陽光パネルにもリースがあると聞いたがそれには補助が出るのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

設置する建物の所有者が太陽光パネルを設置する場合に補助をする。また、リースについては、こちらも別の形で間接的に国からの補助が出ている。補助の重複を避けるため、市からの補助は実施しない。

(丸山会長)

市が促進区域として設定して良いとされている区域はどの程度あるのか。また、市が促進区域に設定しなかった区域、例えば田舎の田畑や耕作放棄地では太陽光パネルの設置はできないのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

市として促進区域に設定できる箇所は、国や県が促進区域に含めない地域とされた場所以外である。その中で今回、屋根や建物の敷地内の土地を促進区域として指定する。また、促進区域に指定した場所以外の場所での太陽光パネルの設置を規制するものではない。補助などを出して太陽光パネルの設置を「促進する」場所を指定するものである。

(丸山会長)

今回の考えは、耕作放棄地や田舎ではなく、市街地の促進（住宅地の促進）ということでしょうか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

そうである。

(渡邊委員)

建物の屋根への設置を促進する中で、文化財はどうするかというところが問題になってくると思う。指定文化財については設置できないと思うが、登録文化財については、規制が緩く設置ができる可能性がある。文化財についても太陽光パネルの設置に対する補助をしていくのか、文化財については除外するのか検討する必要がある。

ある。

(ゼロカーボンシティ推進課)

検討する。

(吉永委員)

指定する促進区域の敷地内の土地の要件として「自家消費するにあたり」とあるが、これはどういった意図があるのか。工場などの売電目的でもいいのか。大規模工場に隣接する駐車場など想定されると思う。これでは普及促進には意味がないと思う。また、太陽光パネルの設置の希望が多数出てきた際に、条件の良いところを優先的に実施したほうが良いと思うが、そういった優先順位は考えているのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

メガソーラーやオフサイトではなく、まずはエネルギーの地産地消ということで「自家消費」という文言を入れている。おっしゃるとおり普及促進の目的もあるので売電は想定していない。

優先順位については今のところは想定していない。できるだけ多くの場所に普及させていきたいと考えている。

(橋本委員)

「敷地」の範囲はどの程度を想定しているのか。申請者が居住していない別の所有地でもよいのか。また、配慮事項として反射光の問題などあるが、個別で判断していくことになるのか。申請があった後、問題ありとなり補助が出ないということもあるのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

基本的には、家があってその敷地の庭というのを想定している。敷地内の建物に使う電力を生み出すことを目的としている。

現在も太陽光の補助は実施しており、反射光などの問題は現状もある。難しい問題ではあるが、できるだけ懸念事項を減らせるように検討する。

(川田委員)

設定されている太陽光発電の目標値は市内の電力消費量のどの程度なのか。また、その目標を達成するには今ある建物のどれくらいの割合に設置すれば達成できるものなのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

目標として設定されている 313,654 kWは岡崎市内の太陽光パネルを設置できるすべての屋根に設置したと仮定した場合に発電できる能力値を推計したものである。

そのため、市内の電力消費量の何パーセント程度を再生可能エネルギーに替えていくという目標設定ではない。市内で太陽光パネルが設置可能な屋根にはできるだけ多く設置してもらい、太陽光発電による発電量を増やしていくものである。

(3) 岡崎市における気候変動対策推進のあり方について（審議）

事務局より審議内容について説明した後、質疑応答がなされた。

(大美委員)

議題3 - 資料③の7ページに災害レジリエンスの強化という言葉があるが、「レジリエンス」という言葉に市民は馴染みがないと思う。分かりやすい言葉に変えたほうが良いと思う。

(ゼロカーボンシティ推進課)

レジリエンスは「強靱化」の意味である。レジリエンスという言葉に限らず市民の方に伝わりやすい言葉を検討する。

(鶴田委員)

議題3 - 資料③の7ページの災害レジリエンスの強化の部分で必要な予算の確保とあるが、予算と記載があるのはここだけであるが、意図的にそうしているのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

記載の言葉の定義がバラバラになってしまっているため、表記の統一を検討する。

(鳥山委員)

今後のスケジュールでパブリックインボルブメントとあるが、具体的にはどういったところに意見を聴取するのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

市民にはLINEを通じて、事業者は協定を結んでいる150社程度、関係団体は地球温暖化防止隊を考えている。

(丸山会長)

条例案をパブリックコメントには出さないのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

パブリックコメントについては条例案の形ができた後、令和6年3月に実施する予定である。

(丸山会長)

条例案をパブリックコメントに出した後は本審議会では審議はしないのか。

(ゼロカーボンシティ推進課)

本審議会ではあり方・条例の考え方を諮問したものであったため、パブリックコメント後の審議は考えていなかったが、検討する。

(佐谷委員)

緑化の推進の項目があるが、街路樹に関しては、成長すると根が伸び、道路はひび割れたり、葉が生い茂る時期にはムクドリが多く寄ってくるため枝打ちしてしまっているため、日陰にもならない。これでは緑化の推進とは言えないと思うので、その分太陽光パネルを設置したほうが良いのではないかと。

(ゼロカーボンシティ推進課)

街路樹の管理の面はあるが、緑化は多少なりともCO₂の吸収に繋がる。

(吉永委員)

緑化の仕方に問題がある。緑化は管理と設計が大事である。場所によると思うが、車道、歩道を拡張したうえで街路樹を植栽できればよい。木は炭素を内部に取り込み固定化するが、それを燃やしてしまったら固定化した炭素が大気中に出てきてしまい全く意味がない。バイオマスに活用するなどその後のことも検討する必要がある。

また、今後は適応の面で歩道に屋根を付ける、そしてその屋根を太陽光でということがよい。都市計画で検討してほしい。

(渡邊委員)

元々は徳川家康の時代に、街路樹は植えられた。歴史のあるものであり、防災の役割もある。街路樹は文化という側面もある。

会議資料

令和5年度第3回岡崎市環境審議会次第

岡崎市環境審議会委員名簿

岡崎市環境審議会配席図

諮問書(写) 岡崎市版レッドリストの改訂について

議題1-資料① 岡崎市版レッドリストの改訂について

議題1-資料② 特筆すべき種のカテゴリーとその理由

諮問書(写) 岡崎市地域脱炭素化促進事業における促進区域の指定について

議題2-資料① 地域脱炭素化促進事業における促進区域について

議題2-資料② 岡崎市地球温暖化実行計画(区域施策編)別冊

議題2-資料③ 岡崎市地球温暖化実行計画(区域施策編)修正部分

- 議題 2 - 資料④ 市町村の促進区域の認定状況
- 議題 3 - 資料① 第 2 回環境審議会における主な委員発言要旨及び対応案
- 議題 3 - 資料② 岡崎市気候変動対策推進条例骨子
- 議題 3 - 資料③ 岡崎市気候変動対策推進のあり方について（中間とりまとめ）
（案）